

極東開発工業  
CSR報告書 2015



# INDEX



<b>1</b>	<b>トップメッセージ</b>	<b>2</b>
.....		
<b>2</b>	<b>トピックス</b>	<b>3</b>
.....		
<b>3</b>	<b>CSR</b>	<b>8</b>
.....		
<b>4</b>	<b>お客様への責任</b>	<b>10</b>
.....		
<b>5</b>	<b>環境への取組み</b>	<b>12</b>
.....		
<b>6</b>	<b>従業員に対する責任</b>	<b>19</b>
.....		
<b>7</b>	<b>地域社会への貢献</b>	<b>27</b>
.....		

# 1 トップメッセージ



極東開発工業株式会社  
代表取締役社長  
高橋 和也

皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
おかげさまで当社はこの6月をもって創業60周年を迎えました。

1955年に特装車の販売会社としてスタートした当社は、その後、環境事業や  
パーキング事業など業容を拡大しながら日本経済の発展に貢献してまいりました。  
途中、景気の変動を受けて厳しい時期もありましたが、こうして60年の節目を無事に  
迎えることができましたのも、ひとえにお客様をはじめ関係する多くの方々から  
ご支持いただいた結果であります。

また、今年は2013年4月より取り組んでおります中期経営計画「Next Step 2015」  
～さらなる飛躍に向けて～の最終年度にもあたる重要な年度でもあります。これから  
将来に向けて飛躍するための経営基盤の再構築や、ステークホルダーから信頼され  
愛されるグループづくりに向けて取り組んださまざまな施策を以後のページにて  
紹介させていただいておりますので、ご参照いただければ幸いです。

当社は創業以来掲げてきた「技術と信用を重んじ一致協力して企業の生々発展に  
努力し広く社会に奉仕する」という経営理念を礎に、今後益々発展していく所存  
であります。引き続き皆様には一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしく  
お願い申し上げます。

高橋和也

## 2 トピックス



世界初<sup>(※)</sup>となるハイブリッドシャシの走行用モータで塵芥収集装置を駆動する

### 電動式塵芥収集車「e パッカー<sup>®</sup> ハイブリッド」

ハイブリッドシャシの走行用電気モータで塵芥収集装置を駆動させるシステムを搭載した電動式塵芥収集車「e パッカー ハイブリッド」を日野自動車殿と共同開発し、2014年5月に発売しました。当新製品は、日野自動車殿の小型トラック「日野デュトロ ハイブリッド」に搭載されているハイブリッド車用バッテリーと走行用電気モータを利用して、PTO（動力取り出し装置）を作動させることにより、塵芥収集装置を電気で駆動するシステムを採用しています。

このシステムでは、走行の動力を利用して充電を行うため、コンセント接続による充電作業が不要です。また、当社が従来より発売している「e パッカー」同様に、電気駆動時はエンジンを止めて作業を行うことができるため、排気ガスがゼロと低騒音化を同時に実現しています。

（通常のごみ収集車と同様、エンジン駆動での作業も可能です。）

電動式塵芥収集車のパイオニアである当社とハイブリッドトラックのパイオニアである日野自動車殿の技術が融合して開発された世界初<sup>(※)</sup>となる次世代型のごみ収集車です。

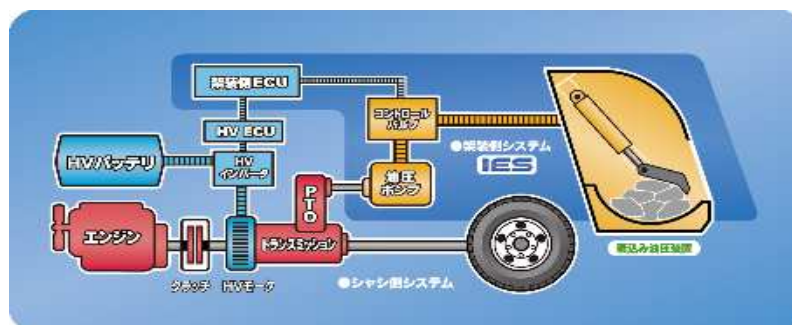
（※）ハイブリッドシャシの走行用モータで塵芥収集装置を駆動するごみ収集車で世界初。（当社調べ）



2 トン プレス式



2 トン 回転板式



「e パッカー ハイブリッド」システム概要図



小型化によるコスト圧縮でマーケット拡大

## 簡易移送型トランスヒートコンテナの開発

三機工業株式会社、三重中央開発株式会社との3社共同で、簡易移送型トランスヒートコンテナを開発し、三重県内で実証試験を行いました。試験では、三重県伊賀市の三重中央開発株式会社 エネルギープラザから発生する焼却排熱を小型トランスヒートコンテナに蓄熱し、脱着ボデー車（フックロール®）を用いて約10km離れた温泉宿泊施設「ヒルホテルサンピア伊賀」まで運び給湯用熱源として利用しました。

この開発は、トランスヒートコンテナの総重量を10トン以下（従来は24トン）に小型化し、フックロールでの運搬を可能とすることで、ランニングコストおよびイニシャルコストの低減を図りました。また、排熱を利用しやすくすることで、温暖化ガス削減にも貢献します。



熱源側施設搬出



熱利用側施設搬入

水害から大切な資産を守る防水板の対応バリエーションが拡大

## アルミ跳ね上げ式簡易防水板「ザ・ガードバン®」に新仕様を追加設定

アルミ跳ね上げ式簡易防水板「ザ・ガードバン」に、片扉にも設置可能なパネル幅が800mm~1,100mmの仕様（片扉仕様）を新たに特別仕様として追加設定いたしました。

「ザ・ガードバン」は、当社が永年にわたって培ってきたテールゲートリフタ（商品名：パワーゲート®）の製造ノウハウを生かして2011年9月より発売している防水板で、台風やゲリラ豪雨の際に扉からの水の侵入に効果を発揮します。



医療法人 回生会 宝塚病院様  
通用口設置例



## 事業展開について

当社は、豊富なラインナップを揃え日常のあらゆるシーンで活躍する特装車の製造・販売を行う特装車事業、業界トップクラスを誇るリサイクル施設の建設および施設の運転受託等を行う環境事業、立体駐車装置の製造・販売やコインパーキングの運営、また太陽光発電等を行うパーキング事業の3つの事業を軸として展開しています。

日本経済は、政府の経済対策や金融政策を背景として、企業収益・雇用情勢・公共投資の持ち直しが見られたほか、個人消費についても緩やかな回復の兆しがありました。

しかしながら一方で、消費増税や円安の進行、原油価格の急激な変動の影響があり、一部に先行き不透明感も見られました。

このような状況下、当社グループは丸となって取り組んでいる中期経営計画「Next Step 2015」～さらなる飛躍に向けて～（2013年4月1日～2016年3月31日）において、「成熟した国内市場で勝ち残るための強固な収益体制の構築」、「グローバル展開のための基盤強化」、「モノづくりの総合力強化」、「国内外でのブランド価値向上」、「事業提携やM&A、新分野参入の推進による将来のコア事業創出」の基本方針のもと、経営基盤の再構築と企業価値の向上に努めるとともに、あらゆるステークホルダーから信頼され、愛されるグループとして魅力ある企業文化の形成を推進することで、国内・海外ともに売上および利益の拡大と、更なる企業価値向上に繋げるべく積極的な諸施策を実行してまいります。





## 特装車事業について

国内は特装車の需要が引き続き高い水準で推移する中、受注の確保に注力するとともに、各工場においては生産のより一層の効率化および合理化のための設備導入等を行うことで納期の短縮および売上・利益の拡大に努めました。

その他、ハイブリッドバッテリーの電気で塵芥収集装置を駆動させる世界初のシステムを搭載した電動式塵芥収集車「eパッカー®ハイブリッド」や、お客様からのブランド認知も高い製品である「フラトップ® Zero」の新型で斬新なデザインを採用した「フラトップ® Zero II」などの新製品の開発および拡販も積極的に行いました。



海外は、タイにおけるバンポデーおよびダンプトラック等の生産・販売拠点となる新会社（Trex Thairung Co., Ltd.：ブルワックデー郡）の工場建設を進めました。なお工場建屋は2015年5月に完成し、今後は2015年度中の稼働に向けた準備を行います。



「フラトップ® Zero II」



「大型ダンプトラック G.V.W20t」



## 環境事業について

プラント建設につきましては受注活動を展開した結果、新規物件として北海道士別市様よりリサイクルセンターの建設工事を2014年5月に、大阪府泉大津市・和泉市・高石市の3市からなる一部事務組合である泉北環境整備施設組合様より資源化センターの建設工事を2014年10月にそれぞれ受注したほか、受注済物件の建設工事も進め4物件の納入を行いました。また、メンテナンスおよび運転受託にも引き続き注力しました。

なお、これからの取り組みとして、2015年5月にコーンズ・アンド・カンパニー・リミテッドと技術提携を行い、バイオガスプラント事業に参入しました。今後、バイオマス資源からクリーンエネルギーを産み出すシステムとして拡販を図ります。



バイオマスプラント（高千穂）

\*\*\*\*\*

## パーキング事業について

立体駐車装置は引き続き市場環境は厳しい状況で推移したものの、メンテナンスおよびリニューアル事業において積極的な受注活動を行いました。

また、コインパーキングにおいては継続して事業地選別を行い稼働率の向上を図ったほかコストダウンも推進しました。

さらに太陽光発電について、既に稼働を行っている2拠点（福岡県飯塚市および青森県八戸市）に加え、愛知県豊川市においても拠点を稼働させました。今後の取り組みとしては、2014年にインドネシアに設置した立体駐車装置のデモ機を活用した市場調査を行い、インドネシアにおける立体駐車装置の可能性を検討していく予定です。



インドネシアに設置の立体駐車装置



# 3 CSR



## CSRに対する基本的な考え方

当社は、創業時に掲げた経営理念のもと、長年にわたり培ってきた技術と信頼を軸に、お客様やお取引先様などをはじめステークホルダーの皆様とともに、世の中の発展に向けて、新たな価値を創造し続けていきます。

経営理念  
技術と信用を重んじ  
一致協力して企業の  
生々発展に努力し  
広く社会に奉仕する

2003年にCSRポリシーとして、「極東開発工業ビジネス行動規範」を制定し、これをベースに、ステークホルダーとともにスパイラルアップしながら社会の発展に貢献していきたいと考えています。

### ビジネス行動規範（抜粋）

企業が効率や利益を追求し競争を行うこと自体は、正常な企業活動です。  
しかし、利益の追求、競争が高すぎるあまり、企業活動が社会的正義に  
反するものになってはなりません。

極東開発工業の企業活動は、お客様やお取引先をはじめ、株主、地域社会などの  
数多くの人々との関係の中で成り立っており、健全な企業活動を通じて、  
これらの人々の期待に応える責任があります。

極東開発工業は、企業としての社会的役割、責任を自覚し、  
社会とともに成長し、発展し続けます。



## コーポレートガバナンスについて

当社は、環境の変化に対応して経営方針・経営戦略の迅速な意思決定を行うとともに、その方針や戦略を確実に、スピーディーに、かつタイムリーに実行するための体制を強化し、企業価値の拡大をはかることを主眼とした経営を行っております。また、意思決定から執行までの過程において、法令やルールの順守を徹底するため、監査・監督機能を強化しています。

企業理念の高揚をはかりながら、健全な企業活動を通じ、一企業として、また社会の一員としての社会的責任や役割を自覚して、お客様、お取引先様、株主、地域社会のみならず、従業員などさまざまな関係者との良好な関係を築いていくことを、経営上の重要課題と認識しております。

コーポレートガバナンスについては、別途『コーポレートガバナンス報告書』により公開しています。

また、当社の決算に関する情報については

『IRレポート』を発行しております。

なお、コーポレートガバナンス報告書および

IRレポートは、当社ホームページでご覧いただけます。



## コンプライアンス

法令や社会のルールを含め当社の定めた規範に則った行動は健全な企業活動の基本であります。

当社は、そういったコンプライアンスに対する運用を確実なものとするために、『極東開発工業ビジネス行動規範』を制定し従業員として守るべきルールを明確にすると共に、その管理監督部門として社長直轄のCSR室を設置しております。

また、『倫理相談に関する規定』をはじめハラスメントに対して委員会を設置するなど、問題の未然防止に努めるだけでなく働きやすい開かれた職場環境づくりにも力を入れております。

社内ネットワークを通しての教育は、順守すべき法令の解説だけではなく、ダイバーシティや情報セキュリティに関することなど内容も多岐にわたって行っています。

### 社内ネットワークで実施の教育

	テーマ	実施日
情報セキュリティ教育	情報セキュリティ3大脅威	2014年8月
	スマートデバイスの情報セキュリティ	2015年1月
コンプライアンス教育	働く人の法律	2014年5月
	マニュアルの重要性について考えてみよう	2014年12月

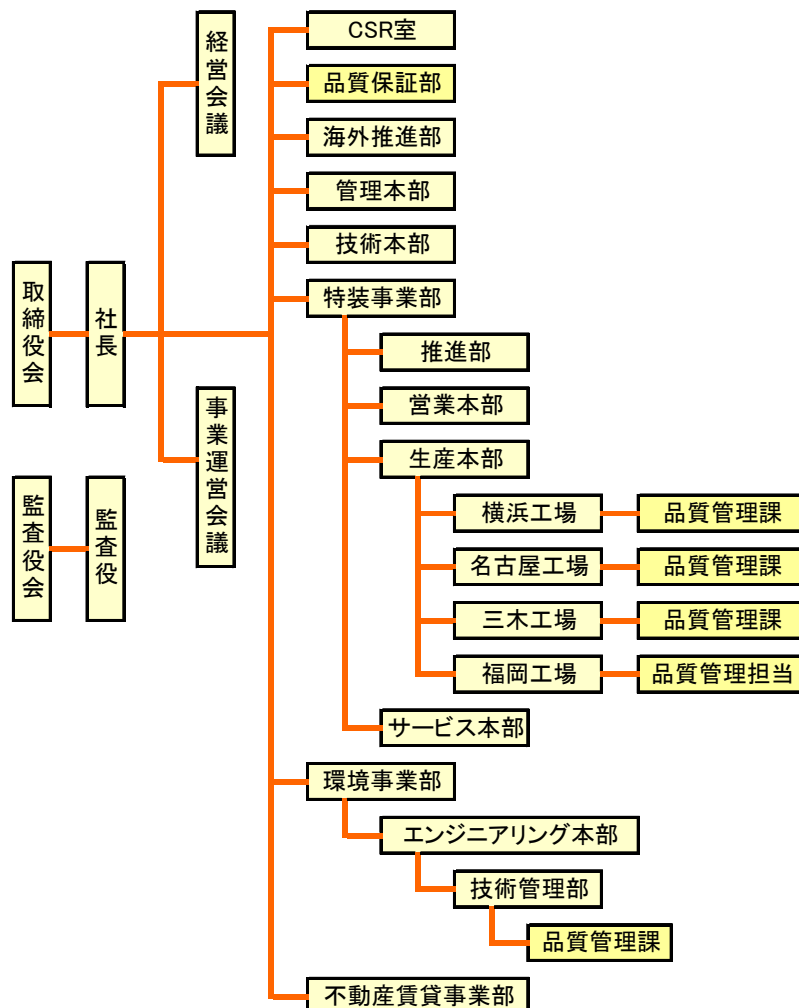
# 4 お客様への責任



当社は創業以来、一貫して「お客様第一」の姿勢で、品質に重点をおいて製品の製造とアフターサービス活動を行ってまいりました。お客様が安全に、かつ満足して使っていただける製品を作り続けるために、市場からの情報のフィードバックとクレーム撲滅に向けての生産改善を行っています。また使用限度を越えた製品に対する使用停止のお願いなどのケアにも取り組んでいます。

## 品質保証体制

当社では、事業所ごとに品質管理課を設置し、各所において品質管理体制の構築・運用と検査業務を行っておりますが、その統括部門として本社に品質保証部を組織し、全社的な品質管理体制を維持するとともに、各事業所の品質保証活動を評価するため品質監査を行っております。



## 情報開示

当社製品におけるリコールなどの重大な不具合に関しては、速やかに所轄官庁に報告する体制を整えています。またそれとあわせて、できるだけ早期にお客様にその情報が伝わるようにホームページやダイレクトメールでお知らせしています。

なお、リコール情報については当社ホームページでご覧いただけます。

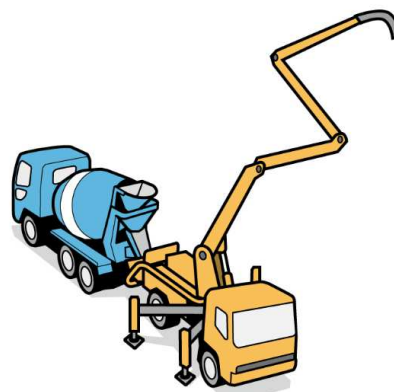
届出日	件名	対象車種・機種
2014年4月21日	普通充電用変換アダプターに関する不具合	電動式塵芥収集車eパッカー®
2014年4月21日	ボギーフレームに関する不具合	アルミタンクセミトレーラ
2014年7月24日	ダンプ操作用コントロールワイヤに関する不具合	大型ダンプ
2014年10月22日	ブームの油圧シリンダに関する不具合	コンクリート作業車
2015年2月17日	トレーラブレーキに関する不具合	タンクセミトレーラ

## サービス品質の向上に向けた取り組み

当社では、日頃から当社製品のアフターメンテナンスを行っていただいている指定サービス工場を対象に製品講習会を行っております。製品が本来もっている性能をフルに発揮し、いつまでも当社製品を安全に安心してご使用いただけるよう、技術的な知識や整備に関するノウハウについて、講習を行っています。



コンクリートポンプ車による講習会



# 5 環境への取り組み



私たちは生産に必要な資源やエネルギーはもちろんのこと、さまざまな点で自然から多大なる恩恵を受けて事業活動を行っています。これを念頭に、私たちは、地球環境をより良い状態で次代に引き継ぐための活動を、あらゆる事業の場面で自主的かつ積極的に行います。

私たち人類にとって、地球環境はかけがえのないものです。当社は、環境を守ることが企業の責務であり、経営の重要課題と考えます。

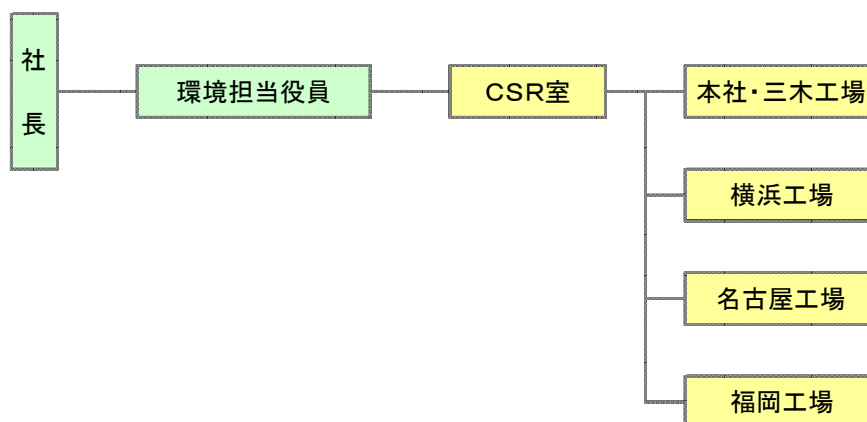
## 基本姿勢

- ①環境問題に積極的に取り組み循環型社会を追求する
- ②地球環境の保全に役立つ技術開発を指向する
- ③公害防止、省エネルギーに配慮する
- ④製品の再資源化に注力する
- ⑤良好な環境の維持向上に努める

## 推進体制

当社は、本社事務所をはじめ5つのサイトでISO14001の認証を取得し、各サイトとも環境保全に積極的に取り組んでいます。2006年4月に設定したCSR室は全社の事務局的な役割を担い、各サイトと連携して環境担当役員の指導の下、環境マネジメントシステムを推進しています。

なお、環境事業部は2008年4月より、また、三木工場は2012年4月より本社と統合運用を開始し、環境保全活動を進めています。





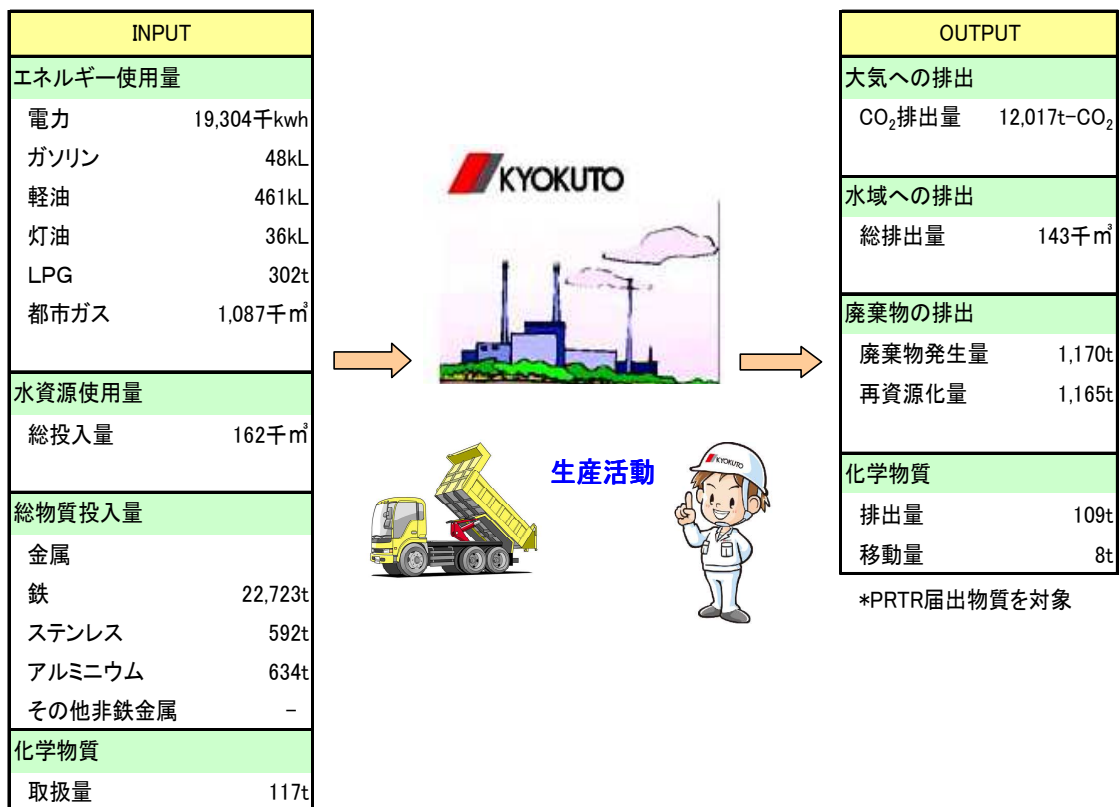
## 中期環境計画

環境経営度を更に向上させ、企業の社会的責任を全うすべく、次のとおり環境改善計画を掲げ、環境保全活動を推進しています。

	目 標		2014年度実績	評価
地球温暖化	中期目標	CO <sub>2</sub> 排出量:2020年度に2005年度比25%削減	2005年度比6%削減	-
	2014年度目標	CO <sub>2</sub> 排出量:原単位で2013年度比1%削減	2013年度比9%削減	○
資源循環	特装車生産拠点でゼロエミッションを達成 (廃棄物最終埋立処分重量0.5%未満)		0.4%	○
大気汚染	VOCの排出抑制に努め、削減率の維持を図る。 (2000年度比で30%削減)		2000年度比47%削減	○

## 4工場における環境側面と環境影響

2014年度の4生産拠点（横浜・名古屋・三木・福岡各工場）における環境負荷実績は下記の通りです。



\*PRTR届出物質を対象

## 環境会計

環境保全への取り組みを効率的、かつ効果的に推進することを目的として、事業活動における環境保全のためのコスト及び効果の把握を、2009年度より環境省ガイドラインに沿って集計しています。

### 環境保全投資

【単位：百万円】

コスト分類	主な取り組みの内容	2013年度実績		2014年度実績		前年比増減	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
(1)事業エリア内コスト		109	52	33	62	△76	10
①公害防止コスト	公害防止設備、水質汚濁防止などのコスト	0	13	0	16	0	3
②地球環境保全コスト	省エネルギー設備のコスト	109	0	33	0	△76	0
③資源循環コスト	廃棄物の分別回収、処理などのコスト	0	39	0	46	0	7
(2)上・下流コスト	グリーン調達、リサイクルなど	0	0	0	0	0	0
(3)管理活動コスト	ISO関連費用、教育	0	3	0	3	0	0
(4)研究開発コスト	環境配慮設計の商品開発	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
(5)社会活動コスト	自然保護、緑化、環境団体への寄付、支援	0	0	0	0	0	0
(6)環境損傷対応コスト	環境汚染の修復費用	0	0	0	0	0	0
合計		109	55	33	65	△76	10

※なお、上記費用には人件費及び減価償却費は含んでおりません。

### 費用削減効果

【単位：百万円】

分類	項目	効果
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	△8
費用削減 <sup>※1</sup>	エネルギー費用の削減	△78
	廃棄物処理費用の削減	△7
	水購入料削減	△4

※1. 対象年実績と前年実績の差を「効果」として算出。

### 環境保全効果

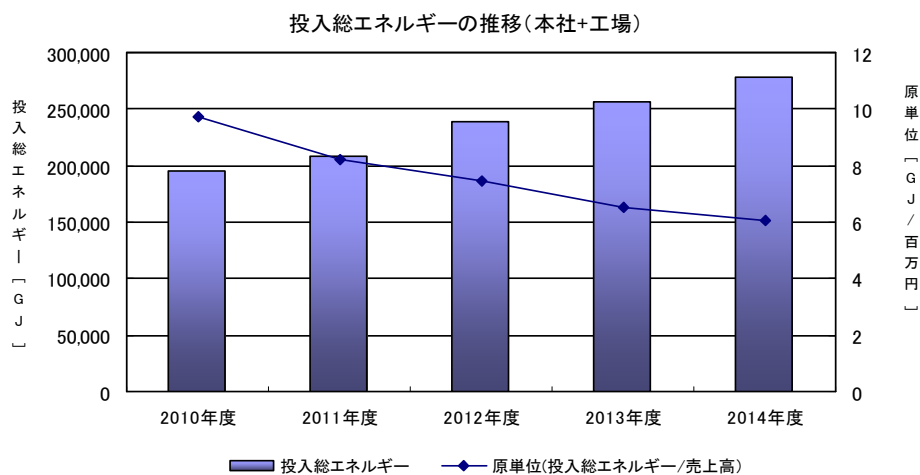
分類		2013年度	2014年度	環境保全効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	256,313	277,923	△21,610
	水資源投入量(千m <sup>3</sup> )	156	166	△10
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	11,404	12,169	△765
	廃棄物総発生量(t)	1,057	1,191	△134
	廃棄物最終処分量(t)	1	5	△4

## 低炭素社会へ向けての取り組み

当社は、自らが定める環境行動基準に従い、循環型社会の実現に向けての公害防止活動や、省エネルギー推進活動を行っています。

### ● 投入エネルギーの推移

電力や化石燃料をはじめとしたエネルギー全般について、ムダのない効率的な運用を心掛けています。



### ● 温室効果ガス排出量の監視

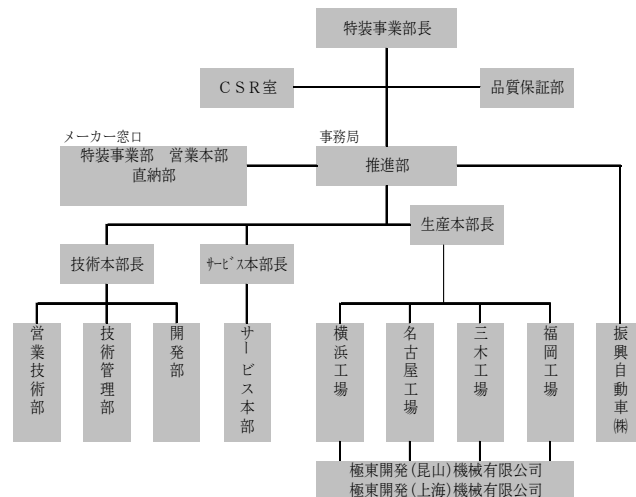
生産量の増加に伴い CO<sub>2</sub> 排出量そのものは増加しましたが、省エネ設備の導入や運転効率の改善などによってエネルギーの効率的な利用は進んでいる状況です。





## SOCフリー化に向けた取り組み

当社では欧州廃車指令（ELV 指令：End of Life Vehicle）、業界団体である一般社団法人 日本自動車車体工業会の自主取り組み基準、及びお客様からの要求を踏まえ、2007 年末には特装車の標準部品において環境負荷 4 物質（SOC: カドミウム・鉛・水銀・六価クロム）のフリー化を達成いたしました。SOC フリー化の維持と共に、特装車に対するお客様からの新たな化学物質管理要求に適切に対応していくため、特装事業部長をトップとする化学物質管理体制を敷き、化学物質の管理強化に取り組んでいます。具体的な取り組みとしては、サプライヤーからご提示を受ける SOC フリーエビデンスの管理徹底、及び生産ライン内での SOC フリー達成看板の掲示等を行っています。



化学物質管理体制

## 製品への明示

SOC フリーを宣言できる製品については、製品カタログやパンフレットにて表示を行い、お使いになるユーザーのみなさまにお知らせしています。

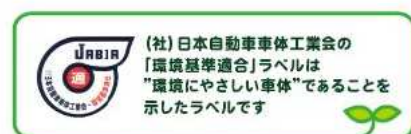
また、一般社団法人 日本自動車車体工業会が制定する 3R 判断基準ガイドラインに基づく弊社基準を満たす製品については、環境基準適合ラベルの貼付を推進しています。

- 製品カタログやパンフレットへの表示



カドミウム・鉛・水銀 及び 六価クロムの削減を実現した製品です。

- 適合製品を示すステッカー





## 環境月間活動の取り組み

### ●環境講演会

当社では、6月を「環境月間」と定め、環境にちなんださまざまなイベントを開催しています。その一環として、外部講師による講演会を企画し、従業員をはじめ社内で働く多くの方々に環境に関する最新情報や省エネ活動の事例などを紹介し環境意識の高揚を図っています。

今年で11回目となる今回は、龍谷大学から里山学の専門家をお招きし、都市と里山の共生に関する講義を行っていただきました。また、IT機器に関する主要取引先様からはタブレット端末やクラウドという概念を利用した業務の効率化と省エネに対する取り組みをご紹介いただきました。

このように、私たちの住む地域社会を理解し、それを取り巻く自然環境や、その中で私たち企業がすべきこと、また、できることを考える、そういった機会を作っていくことが環境配慮企業としての第一歩だと考えています。



2014 環境月間ポスター





## ●環境標語・環境フォト

環境意識の向上を目的に、環境月間にちなんで従業員から環境標語及び環境フォトを募集しております。今回は環境標語 165 件、環境フォト 18 件、合計 183 件の応募があり、その中から優秀賞として環境標語 12 作品、環境フォト 3 作品が選ばれました。

### 環境標語優秀賞

- 🍀 e-パッカー 無駄な燃料使わずに ゴミを集めて大活躍
- 🍀 このいのち 地球に守られ 生きている
- 🍀 ゴミは GO me! 捨てれば自分に跳ね返る
- 🍀 システム化 これもひとつの エコな事
- 🍀 「幸せ」を ふやす心で エコ意識
- 🍀 ガソリン代 上がって判る エコ運転
- 🍀 エコ企業 モラルとアイデア 見せどころ
- 🍀 始めよう 未来に繋がる エコライフ
- 🍀 徒歩通勤 減らそう脂肪と シーオーツ
- 🍀 その ごみを 資源にするのは あなたの手 残さう資源 守ろう自然
- 🍀 エコってなに? 優しい心が 生む軌跡
- 🍀 ごみの山 分別すればエコの素

本社 サービス技術課  
 横浜工場 品質管理課  
 極東サビ・スイング・コアリック 北海道㈱ 中沼事業所  
 東京本部 推進部  
 名古屋工場 管理課  
 極東サビ・スイング・コアリック(株) 羽咋事業所  
 本社 標準課  
 横浜工場 技術部  
 極東サビ・スイング・コアリック 北海道㈱ 本社サビ・ス課  
 三木工場 技術部  
 本社 サービス技術課  
 極東サビ・スイング・コアリック(株) 八尾事業所

### 環境フォト優秀賞



極東開発パ・キック 株式会社



横浜工場 技術部



極東サビ・スイング・コアリック 北海道株式会社

# 6 従業員に対する責任



当社では、従業員の多様性を尊重し、安全で働きがいのある職場づくりに努めています。また、グローバルな事業展開と更なる企業価値の向上を目指すうえで必要な、自律的な人材の育成に力を注いでいます。

## 求める社員像

- ・常に、自立(自律)心を失わず、他に依存しない。  
　　<自分に対する厳しさ>
- ・常に、公を優先し、私を後にする。  
　　<社会・顧客・会社・部門に対する企業人としての心>
- ・常に、正義・道義を大事にし、ごまかしがない。  
　　<人間としての正しさ>
- ・常に、謙虚さを失わず、傲慢さが無い。  
　　<自己を省みる姿勢>
- ・常に、チャレンジ精神を持ち、安易に妥協しない。  
　　<深く考え、失敗を恐れずに深遠を持って行動する姿勢>

## 従業員の人権

当社の行動規範をあらわした『極東開発工業ビジネス行動規範』では、国籍、性別、年齢、障がいの有無や、価値観、文化といった、さまざまな異なる背景を持った社員が尊重しあいながら仕事ができる体制づくりを進めることが定められています。加えて、国連の世界人権宣言やILO(中核的労働基準)などの国際規範を尊重しています。

また、ハラスメントの排除を目的に、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント対策委員会を設置し、労使から選出された相談員が従業員からの相談にあたっています。

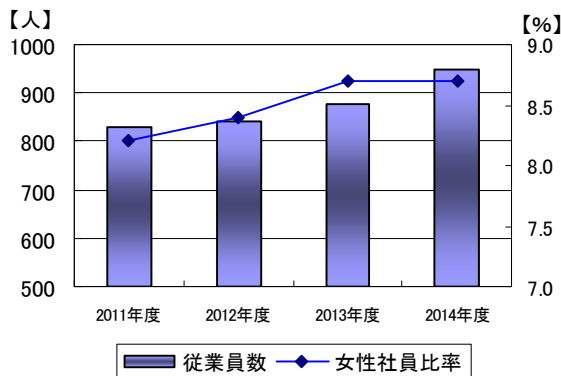
## ワークライフバランスの推進

社員が健康でイキイキと働くためには安心して仕事に打ち込める職場環境づくりが必要です。

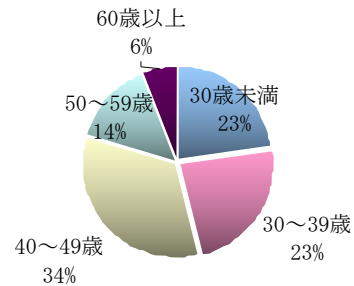
当社では、労使による意見交換のための協議会を定期的で開催し、職場の問題を共有すると同時に改善に向けた話し合いを行っています。また、定時退社日の設定や定時退社に向けた社内ネットワーク利用時間の適正化に向けた取り組みを推進しています。

## 従業員データ

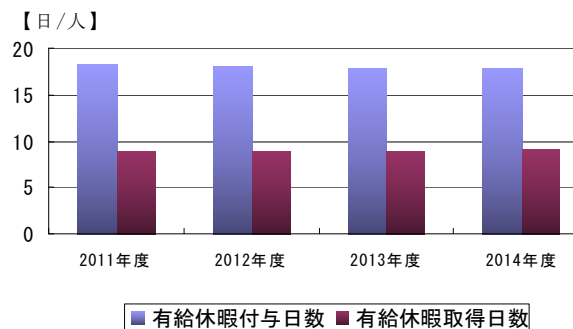
従業員数/女性社員比率



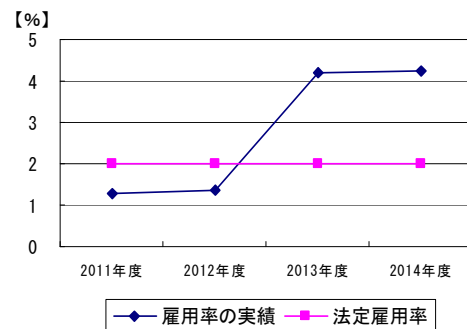
従業員年齢構成



有給休暇の取得状況



障害者雇用比率の推移

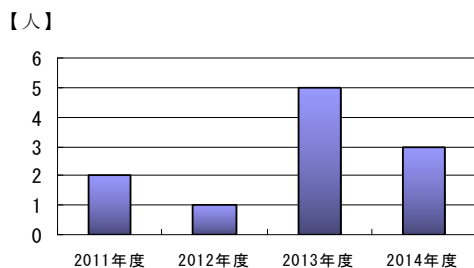


## 育児・介護に向けた支援

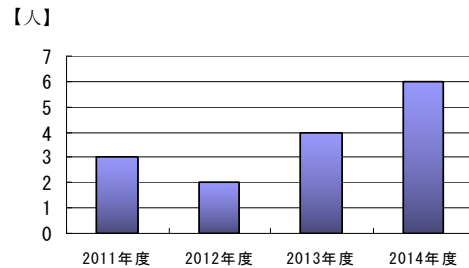
社員が安心して育児や介護に専念できるよう、短時間勤務や時間差勤務制度など労働時間に関する制度のほか、産前産後の通院に配慮した制度や復職に際しての制度を設けるなど、ワークライフバランスの実現に向けた体制づくりを進めています。

これらについては、一般事業行動計画を策定してホームページにも掲載しています。

産休取得者



育児休業取得者





## 階層別研修の実施

右図のとおり1年を通じて全社員を対象に、各階層で求められるスキルを育成するためのさまざまな教育を行っています。

### ●入社1年目

入社1年目の新卒社員に対しては、社会人としてのマナーをはじめ、当社の経営理念や歴史、製品知識などについて基礎教育を行っています。

### ●入社2年目と3年目

入社2年目と3年目には、社会人としてスタートしてからの行動を振り返る機会を設け、そこで再度、基本的な内容についての教育を行うことで、より確実にレベルアップしてもらう体制を作っています。

### ●中堅社員

係長やマネージャー職を含めた中堅社員を対象とした研修や、セクハラ・パワハラについての教育なども体系的に行っています。



リーダー研修



新任管理職研修

新入社員研修

4月

新任管理職研修

5月

6月

リーダー研修

7月

8月

9月

新入社員フォロー研修

10月

フォローアップ研修

11月

キャリア開発研修

管理職養成研修

12月

1月

上級管理職研修

2月

## その他の制度

当社の技術や技能など、専門性の高いものについては高く評価すると同時に、その育成についても制度を整えています。

### ●技監・マイスター・シニアマネージャー制度

当社の技術や技能の発展に向けて、高い専門性を有する者を対象に経営会議で選任しています。

### ●資格奨励金制度

業務に関連のある公的資格など105種類を対象に奨励金を支給し、社員のレベルアップを促進しています。

### ●語学奨励金制度

海外でも通用する人材を育成するために、英語、中国語を対象に奨励金を支給し、語学力の向上に努めています。

### ●社長表彰制度

当社では、従業員の会社業績への貢献すなわち社会への貢献に報いるために社長表彰制度を設けています。

2014年度は、チーム賞3件、功労賞32名、発明大賞1件、発明優秀賞1件が選ばれました。

#### 【受賞者コメント】

—発明大賞 「パワーゲート® V型プレスゲート」—

このたびは発明大賞をいただき大変光栄に思っております。  
本製品は、プラットフォームを一体でプレス化することで  
外観品質および防錆力の向上を狙っています。  
開発においては、その核となる大型プレス部品は図面通りの  
精度を確保するのに苦労し、何度もトライ＆エラーを  
繰り返しながらようやく製品化することに成功いたしました。  
これまでにご協力いただいた方々には改めて感謝したいと思います。





●自己啓発通信教育奨励制度

語学・資格取得対策・技術・技能などさまざまな分野の通信教育約250講座の中から、自由に選択受講できます。また修了状況に応じて通信教育受講料を最大全額奨励金として支給し、従業員のスキル向上を促進しています。

●自己申告制度

計画的CDP（Career Development Program）やキャリア形成を支える仕組みとして、「自己申告制度」を導入しています。「自己申告制度」を活用し、現在の職務適性や将来の目標について上司と部下が話し合う機会を設け、人材育成をより確実なものとしています。

溶接技能検定

当社では、協力工場様・弊社社員の別なく、製品に於ける溶接品質の更なる向上を目指し、2012年度より社内規定による溶接技能検定を年1回実施しています。過去2回はテストピースによる検定を行ってきましたが、さらに溶接技能の格差を見極めるため2014年度より、実際の製品部位を模した題材で当検定を行う事としました。2014年度は右の写真の通り、塵芥車ボデーの一部を題材として採用しました。



溶接技能検定は、単にそれを行う事が目的では無く、この大会を通じて溶接技量を高め合い、各製品の溶接品質を更に向上させて行く事を目指しています。今回は塵芥車が題材でしたが、今後は他製品へも広げて実施していく予定です。また、今回の参加者各位には溶接品質向上のリーダーを担って頂ける取組みをしていきます。







## レクリエーション

当社では、年に一度、従業員の親睦を深めるために各職場にてレクリエーションを行っています。日帰り旅行を企画する職場やボート大会を開催するグループなど、期間中は各地の職場でさまざまな催しが行われます。

### ●伊勢日帰り旅行

7月12日、名古屋工場では17年振りとなるバス旅行に行きました。松阪で松阪牛すき焼をお腹いっぱい食べたあと伊勢神宮に向かい、そこで名古屋工場のこれからの発展を祈願してきました。また、神宮内では当社の散水車が活躍している姿を発見。メンバーの中から歓声があがる場面もありました。当日は天気もよく、参加者全員が楽しんで過ごせたレクリエーションとなりました。



### ●バンガローでBBQ

福岡工場のレクリエーションは、同敷地内にあるサービス課と環境事業部と合同で泊りがけのバーベキューに行き、肉、魚、ビール、温泉を堪能しました。虫刺されもひどかったですが、みんなで楽しめた小旅行でした。



### ●ミュージカル鑑賞



三木工場では、参加者を募り、7月5日に劇団四季のミュージカル「ライオンキング」を観に行きました。迫力ある演技、舞台演出の美しさに大変感動しました。

### ●ホテルでビュッフェ、バイキング

東京本部では部門間の交流を図るため、毎年大きく3グループに分かれて実施しています。1つは6月1日開催のゴルフ会。他は2グループに分けて別々の日にホテルでの和食コースとビュッフェレストランでバイキングコースでの食事を実施しました。リクレーションを通じて普段交流がない方と食事やお話し、楽しい時間を過ごすことができました。





## 安全に向けた取り組み

「安全は全てに優先する」という方針のもと、事業所ごとに安全衛生活動を行っています。

### ● リスクアセスメントの推進

全従業員がリスクアセスメントに対する共通の認識を持つために、共通の教材を用いた研修をそれぞれの事業所で行っています。また、工場においては、リスクアセスメントを元に作成した改善プランにより、計画的に安全対策を進めています。

### ● 安全パトロールの実施

事業所ごとで開催している安全衛生委員会では、定期的に会合を開き、職場環境に関する情報収集と意見交換を行っています。また、メンバーが分担して全作業エリアをパトロールし、不安全な作業の廃止や不安全な状況の改善に向けて活動を行っています。

また、7月より安全の専門家のアドバイスを受けて定期的に改善を行っています。

### ● 安全衛生推進会議の開催

毎年一回、各事業所の安全担当者が集まり、それぞれの職場で発生した事故やケガの状況、安全に関する取り組み事例の紹介など、安全衛生に関する情報交換や問題解決に向けた話し合いを行っています。特に、2014年度は安全衛生への取り組みは全社挙げての最重要課題として4工場において社長の安全パトロールを実施しました。

また、この度、全社挙げての安全意識の向上を目指して労働災害の撲滅を図るために、トップの「労働安全衛生方針」を設定いたしました。

### 労働安全衛生方針

「安全は全てに優先する」という方針のもと、職場における作業員の安全と健康を確保するとともに、「快適な職場づくり」を積極的に推進し、作業環境の改善、ならびに無事故無災害の達成に努め、働きがいのある職場づくりをします。

1. 「5S」（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）を推進し「安全意識の向上」を図ります。
2. リスクアセスメントを実施して、災害の未然防止を図ります。
3. 「安全パトロール」を徹底し、不安全要素を探し出し、改善してまいります。
4. 「指差呼称活動」に徹し、安全確保に努めます。



## 営業活動での安全対策

事故や災害は工場に限ったことではありません。当社では、日々の営業活動においてより安全で、且つ安心して移動できるよう、社用車に通信機能やGPS機能を備えた専用端末を取り付け、運行状況が見える化できるシステム（テレマティクスシステム）を導入しています。速度超過のほか、急ブレーキや急加速といった不安全運転を察知し、指導することで、社用車を使用する社員の安全と車による事故を未然に防止しています。



## 健康管理

現代社会はストレス社会といわれています。従業員の健康管理の重要性が日に日に高まる現状に対して、一人ひとりが健康を維持しながら元気に活躍できるように、極東開発健康保険組合やグループ内で福利厚生業務を担当している株式会社 エフ・イー・イと連携して、さまざまな取り組みを行っています。また、産業医によるメンタルヘルスを含めた健康相談も、各事業所において定期的に行っています。

- ・ウォーキングキャンペーンの実施
- ・家庭常備薬の斡旋
- ・健康に関する広報誌の配布
- ・特定健康診査や人間ドック、市民がん検診、郵送がん検診などに対する補助
- ・管理栄養士による特定保健指導や生活習慣改善セミナーの開催
- ・禁煙セミナーの開催
- ・栄養知識に関するポイントカードの設置 など

### ●メンタルヘルス相談窓口の設置

「メンタルヘルス不調者」の自発的な相談に応じられる「セルフケア」体制の一環として、外部の専門家による「メンタルヘルス相談窓口」を2015年1月に開設しました。

①仕事、職場での悩み ②心理的、精神的な悩み ③家庭、地域での悩みなど幅広い分野の相談が可能となっており、カウンセリングはすべて「臨床心理士」が対応してくれます。また、相談方法も「電話」あるいは「面接」のいずれかを選ぶことができます。

# 7 地域社会への貢献



地域社会との積極的なコミュニケーションやさまざまな取り組みを通して、地域に信頼される企業をめざします。

## 地域清掃活動への参加

本社、横浜工場、名古屋工場では、それぞれの地域の自治体が主催する地域一斉清掃に参加し、街の美化に貢献しています。

特に名古屋工場では河川の清掃に参加し、生物多様性の保護にも努めています。



大山川清掃活動（名古屋工場）



わがまちクリーン大作戦(本社)

## 交通安全に向けて

当社の名古屋工場がある小牧市は工場が多く立地し、またそれに伴う大型車両の通行が多いことから、大型車による事故が懸念されています。そんな名古屋工場のメンバーが「一日警察官」として街行くドライバーに交通安全に対する啓発を行いました。



一日女性警察官として啓蒙活動の実施

## 地域消防大会に出場

地域防災の一躍を担うために、毎年 消防署が主催する消防操法大会に参加しています。  
 2014 年度は、本社地区の自衛消防隊は男女とも屋内消火栓操法の部に出場し、男子チームは 15 組中 5 位、女子チームは 11 チーム中 2 位の好成績を修めました。  
 また、横浜工場は、消化の部ならびに 1・2 号消火栓の部に出場し、いずれも優勝を果たすことができました。



本社チーム



横浜工場チーム

## ミニ消防車の寄贈

横浜工場では、1991 年に大和市消防本部に寄贈しその後 23 年間にわたり活躍したミニ消防車「まもるそう」の 2 代目を新たに製作し、寄贈いたしました。

「まもるそう」は、毎年おこなわれる大和市の消防フェスティバルで子供たちを乗せて防災啓蒙に一役買っています。





## 工場見学会の開催

モノづくりへの関心と地域産業への理解を深めてもらうために、横浜工場と三木工場では小学児童や地域の方々を対象に工場見学会を開催しています。

### 工場見学実績

事業所	団体数	見学者数（人）
三木工場	8	230
横浜工場	12	1,262
合計	20	1,492



三木工場での工場見学

## その他の地域活動への参加

当社では、小さな子供たちに特装車について親しんでもらおうと、おもちゃ王国で開催される「はたらくくるま大集合！」のイベントに毎年出展しております。今年は、例年出展している兵庫県加東市のほか、群馬県吾妻郡のイベントにも出展し、実機でのデモンストレーションや製品に関するクイズなどを行いました。

群馬県吾妻郡 おもちゃ王国 2014年9月20日・21日

兵庫県加東市 おもちゃ王国 2014年10月18日・19日



兵庫県おもちゃ王国 展示の様子



群馬県おもちゃ王国 ぬりえコーナー



対象範囲

組織：極東開発工業株式会社

期間：2014年4月1日から2015年3月31日

お問い合わせ先

極東開発工業株式会社 CSR室

兵庫県西宮市甲子園口6-1-45

TEL:0798-66-1417 FAX:0798-65-9330